

令和6年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：令和5年4月 1日
至：令和6年3月 31日

令和6年8月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	1
	2. 学校関係者評価委員名簿	2
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	4
	4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	5
II	学校関係者評価報告書の見方	7
III	学校関係者評価委員会 評価結果報告	
	総評	8
	項目別評価結果	
	○教育重点項目	9
	○評価項目の達成及び取組状況	12
	基準3 教育活動	
	基準4 学修成果	
	基準5 学生支援	
	基準7 学生の募集と受入れ	
	○総合評価	16

IV 学校関係者評価委員会議事録 18

- 1. 全体会自由意見 21
- 2. 分野別分科会 24

議事録

- ① 情報分野分科会 26
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会 28
- ③ DX 分野分科会 30
- ④ 電気分野分科会 32
- ⑤ 電子分野分科会 34
- ⑥ ゲーム分野分科会 36
- ⑦ アニメ分野分科会 39
- ⑧ デザイン分野分科会 41
- ⑨ CG・映像分野分科会 43
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会 45

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和6年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価

- ① 第1回目(7月)に実施する委員会は、令和5年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和6年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ② 第2回目(11月)に実施する委員会は、令和6年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	鈴木 周祐	株式会社びえろ	人事総務部 リーダー
	後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	エグゼクティブ・ アドバイザー
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	セキュリティ技術 部 総括部長
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	交流推進本部 人材交流委員会 委員
	舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	
	西郷 直紀	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	横田 えりか	株式会社ウィザス	教育運営部 教務 DX 支援室
日本語学校	亀田亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ソリューション統 括本部 プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・ 保証人	高橋美登里		
	岸本 美香		
	岡本忠司		
地域住民	原田 識義	百人町西町会	会長
在校生	福田 るあ	コンピュータグラフィックス科	2年生
	渡邊 紗羽	コンピュータグラフィックス科	2年生
	江藤 海羽	ネットワークセキュリティ科	2年生
	下園 紗月	アニメーション研究科	1年生
	森下 晴紀	情報処理科	1年生
	岩永 礼矢	高度情報処理科	1年生
	蔡 ダ ウム	学生自治会 副会長	3年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和6年度第一回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和6年7月22日(月) 13:30から16:30

場所：日本電子専門学校 メディアホール

2) 学校関係者評価委員会実施方法

対面及びオンライン会議システム(Teams)を利用し、ハイブリッド運用にて実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡(スケジュール、事前配布資料確認) 13:30~

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介(日本電子教職員、評価委員)

(4) 評価方法説明

(5) 議長(委員長)選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50~

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○教育活動

○学修成果

○学生支援

○学生の募集と受入れ

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

(7) 令和6年度重点項目発表 15:55~

(8) 意見交換 15:00~15:30

(9) 分科会 15:45~16:45

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① 情報分野分科会

② ネットワーク・セキュリティ分野分科会

③ DX分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメ分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG・映像分野分科会

⑩ モバイル・AI分野分科会

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に入力した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。



4) 分野別分科会の実施

学校関係者評価委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ DX 分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会

- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 25 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第一回目（7月）に実施する委員会は、『令和6年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校から報告のあった項目を評価することになっており、この規定に従い、学校関係者評価委員会を令和6年7月22日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会においては、新型コロナウイルス感染の危険性を鑑み、対面とオンラインのハイブリッド運用で実施し、日本電子専門学校の担当者から報告を受けました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、ご父母、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員25名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みに対する自己評価が「適切」であったか「不適切」であったかを判断し、コメントを記載しました。

今回は、「職業教育評価機構が定めた専門学校等評価基準（Ver.4）」の評価基準に則った自己点検・自己評価が実施され、自己評価で満点とならなかった項目、昨年度から自己評価が向上または低下した項目について報告があり、全体的に例年同様厳しい評価となっていたようです。その日本電子専門学校学校の姿勢を、多くの委員が認め、支持しています。

また、常に学生最優先で新たな取組みの実施や改善改革に取り組まれている姿勢も評価しています。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
議長 鈴木周祐

令和6年度 日本電子専門学校 自己評価報告

教育重点項目

【0-1】NEXT10

0-1-1 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

評価結果	適切：25 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 引き続き完成を目指してください。(木下) ←適切
- ② ディプロマサプリメントや PROG を活用し、学生の学習状況を定期確認されており、教育の質向上に努められていると思いました。(宮内) ←適切
- ③ 学修成果を可視化する検討は、非常に良いと思いました。(満岡) ←適切
- ④ 問題ないと思います。(原) ←適切
- ⑤ この項目は、「学修成果（ラーニングアウトカム）の再設定」産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成の2つのプロジェクトを設定し取り組み進捗していることが説明により理解できた。また、双方の新しい可視化の取り組みは非常によいと思った。(舟山) ←適切
- ⑥ 学修成果をより具体的に可視化することで新たな学習目標にもつながり、また個々の学生の個性も見えてきやすくなり就職活動にも効果的だと感じた。(亀田) ←適切
- ⑦ ディプロマサプリメントにおいては、この後成果が出てからどのような問題点が出るのかの洗い出しが必要になってくると考えた。(江藤) ←適切

0-1-2 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

評価結果	適切：25 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 自治会に参加している学生の面接をすると意欲が高く年齢に比してしっかりしているのを感じます。引き続き、よろしく願います。(鈴木) ←適切
- ② 社会人基礎力を養うのは学生内同士のコミュニティだけでなく外との繋がりを経験も重視されると感じます。社会や社会人と直に触れる取り組みがあると良さそうと感じます。(後藤) ←適切
- ③ 幅広い活動への取り組みと研究をされていてとても良いと思います。(木下) ←適切
- ④ さまざまな学生のためのイベントがあり、学生の自主性を育まれていると感じました。(宮内) ←適切
- ⑤ 社会に出たあと即戦力となる上で重要であり、評価は適切であると思います。(原) ←適切
- ⑥ 学生自治会の適正運用、学生主体の学校行事の在り方の検討、クラス内組織の検討、の3つのテーマで運用されていることが分かった。学生自治会が100名を超

えている点は素晴らしいと思った。(舟山) ←適切

- ⑦ 学生主導でいろいろ行うことはよいことであるし、大変だが多くの行事をおこなうと良いと思います。(勝間田) ←適切
- ⑧ 学生自治会のメンバーが 100 名ほどいらっしやると伺い、驚きました。学生主体の活動の実現が楽しみです。(横田) ←適切
- ⑨ 学生自治会について今後の課題はのこるものの、社会へ出ていく準備として大切な役割を果たすと思うので今後に期待したい。(亀田) ←適切
- ⑩ 地域住民としては地元の活動にも参加してほしい。(原田) ←適切
- ⑪ 学生主導で行うことには賛成だが、報連相が上手くいっていない場面が多々見受けられるため、環境の用意は教員も確認しながらの方が良いのではないかと考えた。(江藤) ←適切
- ⑫ キャリアセンターの方にはお世話になっています、将来役に立つと思います。(森下) ←適切

0-1-3 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

評価結果	適切：25 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 新学科設立フレームを活用し、学生の学習や、費用面のサポートなど、多面的に課題を検討されていることがわかりました。(宮内) ←適切
- ② 常に新しい流れを調査しつつ、新学科設立だけで無い対応の方法の選択も視野にいられていることは正しい判断だと思います。(満岡) ←適切
- ③ 絶えず新しいものが出てくるものにどのように対処するか努力されていると思います。(原) ←適切
- ④ 日本電子専門学校が常に新しい技術にフォーカスしている点は陳腐化を避けるためには学生にとっても学校にとっても良いことです。ぜひ変化し続けてください。(舟山) ←適切
- ⑤ 時代のニーズに合わせ、統廃合は必要。また、新しい学科も調査、検討し、速やかに新設すると時代のニーズに合っ学校の生き残る道になろう。(勝間田) ←適切
- ⑥ 生成 AI の積極的活用支援が必要かと。(岡本) ←適切

0-1-4 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

評価結果	適切：24 96%	不適切：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 特に課題は見当たりません。(木下) ←適切
- ② 生成 AI の活用や、オンライン配信サービスなど、積極的に新しいツールを取り入れていると思いました。(宮内) ←適切

- ③ Google Meet の導入は高評価です。実ビジネスでもメインで使用しています。
(満岡) ←適切
- ④ オンライン授業による学力低下やコミュニケーション不足など心配な点もありましたが、しっかりとアンケートしたり考えられていると思います。(原) ←適切
- ⑤ 生成系 AI を進めるだけでなく、その利用の注意点を考えておられることは良いと思います。オンライン授業はこれからの時代には必須とされますので継続して改善してください。(舟山) ←適切
- ⑥ オンラインニーズがそれほどないのであれば、品質の良い Zoom にこだわる必要もないのであろうと感じました。(横田) ←適切
- ⑦ 当校が御校で担当させていただいているのが語学教育という授業の特性上感じるのかもしれませんが、ハイブリットで行った場合のオンラインの学生さんと対面の学生さんの習得状況に差が出ているように感じます。今回のアンケートでは学生さん側の意見でしたので、教員側からみた成績面の比較などもしていただき結果を拝見したいと思いました。(亀田) ←不適切
- ⑧ リモートは今後も必要と思いました。今後も新たな感染症や災害など継続して授業を受けるためにも普段からリモートをしておくが良い。(岡本) ←適切
- ⑨ 今年度から急にズームじゃなくなったのでなぜだろうと思っていましたが、教育機関向けの契約が出来なくなったとのことだったので納得した。Google Meet はズームに比べて参加しやすいし、授業が以前より快適に感じる。(渡邊) ←適切
- ⑩ 学科ごとによりオンライン授業が好意的かわ変わってくるため、学科ごとのヒアリングも重要だと考えた。(江藤) ←適切
- ⑪ オンライン授業は大変素晴らしいのですが、やはり私は対面の方が好きです。
(森下) ←適切

【0-2】教育全般の重点項目

0-2-1 ドロップアウト対策

評価結果	適切：25	不適切：0
	100%	無回答：0

コメント欄

- ① ドロップアウトについては引き続き検討を進めてください。(木下) ←適切
- ② 学生の学習状況や出席状況をきめ細かく確認されており、フォローアップ対策もされており、貴校で取れる対策といたしましては充分と感じました。入学時のモチベーションとのギャップでドロップアウトされているのかなと思いましたので、このギャップがなくなるような対策(入学時)が必要かと思いました。(宮内) ←適切
- ③ 一定数のドロップアウトは仕方ないことだと認識しています。対策を継続することで減少を目指す取り組みは是非継続して頂きたいと思います。(満岡) ←適切
- ④ 課題はわかっているので、今回はその課題を解決できるものと思いますので、評価は適切だと思います。(原) ←適切
- ⑤ ドロップアウト対策は非常に難しいですね。会社でいえば退社ゼロを目指すこと

- と一緒にするので、それでも前向きな取り組みは理解できました。(舟山) ←適切
- ⑥ 大変だが、多方面でドロップアウト対策は必要。(勝間田) ←適切
- ⑦ 学生、父母への継続的なアプローチがあると良い。具体的に何をすれば良いかは今後引き続き検討が必要と思いました。(岡本) ←適切
- ⑧ カリキュラムについてこられずに辞めてしまう生徒がどれぐらかわからないが、そこだけに注力するのではなく学費の面でももう少しサポートできるようになれば良さそうだなと思う。奨学金や学費免除の対象者枠を増やすなど？(渡邊) ←適切
- ⑨ 上記と同じく、学科ごとによる調査も行うことが重要だと考えた。(江藤) ←適切

基準3 教育活動

【3-12】 教員・教員組織

3-12-22 資格・要件を備えた教員を確保しているか

評価結果	適切：25 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 教員の確保は全国的に大きな課題であるので、ご尽力されていることが成果につながることを願っています。(木下) ←適切
- ② 計画的に専門スキルのある方を採用されている点が良いと思いました。(宮内) ←適切
- ③ エンジニアの観点から、教員採用は教育者に向き不向きの視点がとても重要な気がします。営利目的の企業人とは異なり、学生向けのヒューマンケア・コミュニケーションが基本となり、単に決まった内容を教えるという業務ではなく、「人を育てる」スキルがどこまであるかを見極める必要性を感じます。人財不足の中、大変な活動かと思いますが応援しております。(満岡) ←適切
- ④ どこも人材不足で大変な中で改善方法も明確にしているので適切だと思います。(原) ←適切
- ⑤ 人材の確保はどの業界でも課題となっています。教員の質は生徒のレベル向上に直結しますので、専修学校設置基準に定められた教員以上の教員を確保している貴校ですが、継続してよりよい採用を行ってください。(舟山) ←適切
- ⑥ ほぼ、教員の確保が行われているとのこと良かったです。(勝間田) ←適切
- ⑦ 人材紹介会社への依頼など、現状を変えるために試行錯誤している様子が伝わりました。(横田) ←適切
- ⑧ 教員の確保、人材の確保は、やはり企業支援が必要かと。(岡本) ←適切
- ⑨ 個人的にはやはり実務経験のある教員の方が望ましいと考える。(江藤) ←適切

基準 4 学修成果

【4-13】 就職率

4-13-25 就職率の向上が図られているか

評価結果	適切：25 100%	不適切：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 模擬面接などは企業の協力を頂いても良いと思います。されていたらご放念ください。また、学生自身はしっかりしているのですが、発想といったところに幼さが出てしまうところは散見されます。これらをどのように底上げするか、学生によるばらつきがあるのが難しさだと認識しております。(鈴木) ←適切
- ② 就職支援が充実していると思いました。学生ひとりひとりの就活状況も把握されており素晴らしいと思いました。(宮内) ←適切
- ③ 特に課題は無いとの報告と認識しました。引き継ぎの対応を期待しています。(満岡) ←適切
- ④ しっかりと就職支援をされています。ミスマッチのおきない取り組みも目標とすると良いかもしれません。(原) ←適切
- ⑤ 就職率が高い貴校にはいつも感心しております。キャリアセンターのみならず、組織的にできている点が良い。(舟山) ←適切
- ⑥ いろいろ、工夫して努力していると思います。(勝間田) ←適切
- ⑦ 学生が幸せになれる企業とつながろうとする姿勢は、学生にも伝わると思います。(横田) ←適切
- ⑧ 努力されているのがわかる。(岡本) ←適切
- ⑨ このままの就職率を保って欲しいです。(森下) ←適切

【4-14】 資格・免許の取得率

4-14-26 資格・免許取得率の向上が図られているか

評価結果	適切：24 96%	不適切：1 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 資格取得に際して、素晴らしい取り組み成果だと思います。ただ、学生自身がなんのためにということを理解してもらえよう徹底していただければと思います。面接で記載するものの理解が乏しいケースもあるようです。(鈴木) ←適切
- ② 資格・免許の取得がただ目的になってしまうと、次につながりづらい(引いては学生のやる気向上にも関わってくる)と感じます。資格を取ることで、何に活かせるのか、何に生かしている人がいるのか。など選択肢が広がることを説けると良いと感じます。(後藤) ←適切
- ③ 難しい資格をクリアされた方への表彰など、学生のモチベーションアップも図られていて、検定の実施団体としましては嬉しい限りです。(宮内) ←適切
- ④ 資格は習得確認程度で、重要なのは就職かと思います。在学中の実践的な実績の

- 積み上げを期待しています。(満岡) ←適切
- ⑤ 資格・免許取得は本人の努力も関係するので難しい点もあると思います。ぜひ、支援をさらに進めてもらえれば良いと思います。(原) ←適切
- ⑥ 改善策も立案して実行していることから、「適切：4」の評価でよいのではないかと。(米井) ←不適切
- ⑦ 評価が3はやや厳しいかと思いますが適切かと思っています。(舟山) ←適切
- ⑧ 学生委員の方のお話から、経済的負担により資格取得に躊躇してしまうこともあるという点が気になりました。(亀田) ←適切
- ⑨ 「最低限 取得する資格」のみではなく、目指すべき上位資格を定義している点が良いと思いました。(谷) ←適切
- ⑩ 資格取得が将来の仕事に活かされている実例などがわかると良い。(岡本) ←適切
- ⑪ 授業でやらざるを得ない状況であれば合格率は多少向上すると思われるが、結局は本人の意欲の問題なので無理強いしてもあまり意味はないように感じる。(渡邊) ←適切
- ⑫ 資格面に関しては、費用において取得を断念する人も多いため、そのサポートをどれだけ行えるかが重要だと考えた。(江藤) ←適切

基準5 学生支援

【5-17】 中途退学への対応

5-17-29 退学率の低減が図られているか

評価結果	適切：22 88%	不適切：3 無回答：0
------	--------------	----------------

コメント欄

- ① 分析理由として学習理由の要因が減少していることは成果の表れかと思っていますので、適切とさせていただきます。(鈴木) ←適切
- ② 不適切とは思わないけれども、学習（授業内容の再検討など）学生が課題に取り組むストレスなどにも注力されると良いのでは、と思います。(木下) ←適切
- ③ 学習が原因の退学理由が減ったとのことで、適切と感じました。(宮内) ←適切
- ④ コロナ影響もあると認識しています。さらなる個別のケアが必要になると思います。(満岡) ←適切
- ⑤ 評価は適切としていますが、一番気になったもので、新型コロナ後の教育という点で心配なことが出た結果だと思っています。ぜひ、ドロップアウト委員会でしっかりと議論を進めてもらえればと思います。(原) ←適切
- ⑥ 特効薬はないかもしれないが、取組に不備があるとは思えない。評価は、「適切：4」もしくは「ほぼ適切：3」が良いのではないかと。(米井) ←不適切
- ⑦ 自己評価2は少し厳しすぎかと思いますが、前向きな気持ちが伝わります。(舟山) ←適切
- ⑧ 退学率、諸理由があると思いますが、経済的なことは学校では対処できない面ですね。奨学金みたいのものはあるのでしょうか。(勝間田) ←適切
- ⑨ コロナ禍による影響が大きいと思いますが、コミュニケーションが希薄になって

きている点もかかわっているのではないかと思います。教職員の方の学生さんへの働きかけだけでなく学生さん同士のコミュニケーションがよりとれるような場作りも必要かと思います。(亀田) ←適切

- ⑩ 進路、実生活など多岐にわたりカウンセリングが受けられると良い。(岡本) ←不適切
- ⑪ 退学の理由として、入学前とのイメージの差異をなくすことが必要であると考えた。(江藤) ←適切
- ⑫ 寄り添っていると感じる。(森下) ←適切
- ⑬ 教育面以外でのアプローチが必要だと思います。つきまして学生目線で当課題に考えることができる学生自治会で近日中いくつか案を申し上げたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。(蔡) ←不適切

基準 7 学生の募集と受入れ

【7-25】 学生募集活動

【7-25-44】 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか

評価結果	適切：25	不適切：0
	100%	無回答：0

コメント欄

- ① 積極的に活動されていると思います。(木下) ←適切
- ② チームの皆様で積極的に情報提供に取り組まれていると思いました。(宮内) ←適切
- ③ Web 出願システムはいいと思いました。(満岡) ←適切
- ④ 過去の人口減少がこれからも年々影響が出てくるものと思います。大変ですが頑張ってください。(原) ←適切
- ⑤ 入学検討者がミスマッチの無い学科選択をできるように努めていることが理解できた。(舟山) ←適切
- ⑥ 専門学校よりも大学を選択する学生が増加していくことへの対策(強みの打ち出しなど)も必要になってくるのであろうと感じました。(横田) ←適切
- ⑦ 専門学校の先に何があるのか、将来像を明確に提示することも必要。(岡本) ←適切
- ⑧ ウェブサイトのジャンルごとの案内ページがとても良いと思う、興味あることから引き入れるのは大変効果的だと思う。(渡邊) ←適切

【7-25-45】 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか

評価結果	適切：24	不適切：1
	96%	無回答：0

コメント欄

- ① 10年ほど同じフォーマットで使用していたチラシを一新して新しくしたのはとても良いと思います。授業体験は他県からも学生を呼び込めるよう、オンライン

- や VR 参加などの試みもあっても良いかもしれないと感じました。(後藤) ←適切
- ② 特に問題は見当たりません。(木下) ←適切
- ③ 資料の刷新含め、積極的に募集活動されていると思いました。ドロップアウト対策とも絡むと思いますが、入学してから卒業するまでのイメージ(どんなスキルをどのくらいで学習するのか、就活までに必要なことなど)を、募集時点でよく理解させることも重要かと思いました。(宮内) ←適切
- ④ メディア活用・学校訪問・イベント実施など地道な活動が引き続き必要だと思いました。(満岡) ←適切
- ⑤ 同じように人口減少の影響で今後ますます大変だと思いますのでがんばって欲しいと思います。(原) ←適切
- ⑥ 【7-25-44】とほぼ変わらないので、「適切：4」で良いと思われます。(米井) ←不適切
- ⑦ 適切だと思います。評価3ですが、様々な工夫が伝わりました。(舟山) ←適切
- ⑧ いろいろな方面に情報提供をしたり、募集活動をしていることが知れました。大変ですがよろしく願います。(勝間田) ←適切
- ⑨ 通信制高校に通う生徒は、様々な得意分野のある生徒がいるため、そういったところへのアプローチもご検討願います。(横田) ←適切
- ⑩ 募集案内が刷新されたのが良い。(岡本) ←適切
- ⑪ 高校と連携し本校への入学生を増加させるのは良い考えだとは思いますが、そもそも高校生が減少している現状で効果があるとは思えない。(渡邊) ←適切
- ⑫ 私が参加した時は分かりやすく、安心出来たので適切だと思います。(森下) ←適切
- ⑬ パンフレットで文章を減らして動画を増やしているのがとてもいいと思いました。(岩永) ←適切

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① 多岐に渡る様々な取組みをされていて感心しています。引き続き更なる成果の向上に向けてご尽力されることを願っています。(木下)
- ② 評価自体は甘んじることなく、厳しく評価されている印象を受けました。このような学校側の取り組みにより、引き続き優れたエンジニアが貴校より輩出されることを、期待しております。よろしく願いいたします。(伊藤)
- ③ 現状の課題の把握を明確にされていると思いました。本日はありがとうございました。(宮内)
- ④ いつもながら、全方位においてきめ細かい学校運営に感銘を受けました。人財不足・学修内容見直し等今後の課題はあるとは思いますが、日々の活動の積み上げが反映すると理解しています。Udacity、freeCodeCamp.org など海外ではオンラ

イン環境下での技術教育が主流になっています。御校のコアコンピタンスを改めて精査し、強みを強化して頂きたいと思えました。(満岡)

- ⑤ 業界団体としても人材不足が続いていますので、なんらかの取り組みを取れていければお互い win-win な関係が構築できると思いますのでよろしくお願ひします。(原)
- ⑥ 様々な行動に対する精度が全体的に上がってきているように思ひます。ぜひ継続して改善を続けてください。(舟山)
- ⑦ 多くの分野で自己評価を行っており、学校の向上を図っている努力は、大変なものだと思ひます。教員は、授業以外学生への対応をいろいろ行っており頭がさがる思ひがします。学校として全体的に努力していると思ひます。(勝間田)
- ⑧ 「0-1-1-2 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成」と「0-1-2 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実」には関連があるように思ひます。主体的な取組みを行った学生、と行っていない学生ではジェネリックスキル診断テスト「PROG」の結果にどのような影響があるか興味深いところがあります。分析・評価されてみてはいかがでしょうか。専門的なスキル以外の教育についても期待しております。(谷)
- ⑨ 学校の経営、生徒の募集など詳しくはわからないが地域の人間としては問題を起こしてないと思ひます。(原田)
- ⑩ 色々取組んでいただきありがとうございます。引き続きよろしくお願ひします。(高橋)
- ⑪ 引き続き評価することによってより良い学習環境が整うことを願っています。(岡本)
- ⑫ 他の専門学校に比べると宣伝が弱い印象であるように感じた。CMや広告はお金がかかってしまうので難しいところではあるがSNSで日常や生徒の活躍を発信していれば良いのかなと思ひます。また、本校の一生徒として学校の様々な取組みには大変感謝している。これからも生徒数増加して行事が盛り上がれば良いと思ひますし、より活気あふれる学校になればよいなと強く思ひます。(渡邊)
- ⑬ それぞれの分野での問題に対してしっかりと分析して対策を取られているので大丈夫だと思ひます。(下園)
- ⑭ 入学してオンライン授業も多い中、自己紹介をする機会が少なく、初めはなかなか学校、クラスに馴染めなかった。友達がいることにより学校が楽しいと思ひますことで、退学する人が減ることもあるかと思ひます。(岩永)

IV 令和6年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和6年7月22日 13:30～16:45

場 所：日本電子専門学校 メディアホールおよびオンライン (Teams)

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 (役 職)	区 分
鈴木 周祐	株式会社ぴえろ	企 業
後藤 宗亮	株式会社ファンコーポレーション	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	
伊藤 好宏	JTP 株式会社	
宮内 舞	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会 分科会:小澤賢侍 様 (篠原たかこ様の代理参加)	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	
米井 翔	一般社団法人 組込みシステム技術協会	
舟山 大器	一般社団法人 日本 PV プランナー協会	
勝間田 清一		高校教員等
横田 えりか	第一学院高等学校	
亀田 亜矢子	東京ギャラクシー日本語学校	日本語学校
谷 伸城		卒業生

高橋 美登里		ご父母
岸本 美香		
岡本 忠司		
原田 識義	百人町西町会（会長）	地域住民
渡邊 紗羽		在校生
江藤 海羽		
下園 紗月		
森下 晴紀		
岩永 礼矢		
蔡 ダ ウム		

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
高橋 陽介	学事部 部長
木村 佑	広報部 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長
大桃 洋	総務部 部長
丸山 治	人事部 部長
君塚 信和	管理部 部長

長野 善朗	財務経理部 部長
-------	----------

進行：

- | | | |
|-------|------------------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（鈴木委員） |
| | 6. 自己評価結果の解説とその評価の報告 | |
| | 教育重点項目 | 船山 |
| | 基準3 教育活動 | 丸山 |
| | 基準4 学習成果 | 井上 |
| | | 大川 |
| | 基準5 学生支援 | 井上 |
| | 基準7 学生の募集と受入れ | 木村 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:00 | 7. 令和6年度教育重点項目 | 船山 |
| 15:10 | 8. 意見交換 | |
| 15:30 | 9. 全体会終了 | |
| 15:45 | 10. 分野別分科会（企業・職能団体委員） | |
| | 分野ごとに対面及びオンライン会議システム（Teams や Meet） | |
| | を利用し実施 | |
| 17:00 | 11. 分野別分科会終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業／情報) 合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

いろいろ聞かせていただいて、大変努力され取り組んでいると思いました。教員採用もしくは学生のフレームワークという話が前半にあったと思いますが、新設学科開発フレームを活用した調査・検討がどういうものか。DX等をやられるのは良いと思いますが、本当に需要があるのかどうか。特にDXは分野が広くどのテクノロジーを対象にするのか悩ましいと思いました。説明を伺って、昔のエンドユーザーコンピューティングとかシステムアドミニストレーターの資格の話を想像したところがありますので、各ドメインでの仕事がありきでテクノロジーを加えるという観点だと思ったのでそこをはっきりしながら、また就職先や採用においてはDXという言葉自体が一般の課程では分からないかと思えますし、採用においてはどんな人材が育てられたのか明確にしながら取り組んでいただければと思います。

【(職能団体／電気) 舟山様】

いつも参加させていただいていますが、ずっと毎回新しいことにチャレンジしながら改善されている点は大変素晴らしいと思います。尚且つ、聞いていて思ったのですが、精度が上がっているという部分では非常に感心しております。なかなか企業でも改善提案はなかなかできにくいところがございますので、マイナスのところはなく、どちらかというと本当に素晴らしいと思っております。

【(高校教員等) 第一学院高等学校 横田様】

教員や生徒募集の工夫に関して改善されていて素晴らしいと思いました。Google meetに変えていてオンラインでの音が聞こえにくいというか、いろんな音を拾っていて少し話がわかりにくいというか、ちょっと聞き取りにくい部分があったというのが正直な感想でした。

【(卒業生) 谷様】

毎年参加させていただいていつも勉強させていただいていることが多いのですが、一点感じたのが「0-1-1-2 産業界のニーズに基づいた基礎的・汎用的能力の養成」という項と、「0-1-2 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実」というところで、どちらも専門的な技術的なスキルとは違う面のところとは思いますが、こちらについて、どちらもジェネリックスキル診断テスト（PROG）を両方とも活用されるのはどうかなと感じました。また、先ほど挙げた二つの項目で担当されている職員または教員の方が異なるかもしれませんが、連携してうまく分析・評価を一緒にやって

みるのも良いのかと感じました。今後も専門的なスキルはもちろんなのですが、それ以外の教育についても頑張ってください。

【(企業／ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 相原様】

今回、ジェネリックスキル診断が非常に良い取り組みだと考えております。勉強ができればいいということではなくて、スキルが非常に大事だと思っておりますので、そのような取り組みについては継続していただければ思っております。ただ、入学するタイミングもしくは卒業するタイミングというところで評価はされますが、社会人として何をすべきであるかといったところの指導の取り組みがあると良いかと思いました。二点目としましては、オンライン授業は非常に生産性が上がるということで、企業も積極的に活用しており、非常に良い取り組みではあるという一方、対人関係で実際にリアルに対面した時に会話がうまくできないとか、コミュニケーションスキルの低下が懸念されるというところだと思います。採用活動している中でリモートだとはきはきと回答ややりとりができますが、実際に対面だと意外に物怖じしたりするところが結構見受けられるところがありますので、うまくリモートと対面を使い分けていければ良いと思います。コミュニケーションは円滑にといったところで、難しいことだとは思いますが。それに伴ってドロップアウトの問題も出てくるのかと思いますが、やはり対人関係の問題といったところもあるかもしれないので、そういったところが少し懸念されるのかと思っております。これは別に学校だけの話ではなく、一般企業でもやはり同じような課題をかかえております。学校の方でその場でフォローしたとして、社会に出たときに同じようなことが起きてしまうといったところが懸念される場所がありますので、かなり難しい問題なのかというところで企業としてもそこは課題だと思っております。最後に、資格取得に関して積極的にというところで100%がミニマムスタンダードで非常にいい取り組みだと思いますが、一方で企業にとってそれが採用の一つの目安になることは間違いないので100%合格ではありますけれども、伸びる子どもにはどんどん上位の資格を取らせるような仕組みといったところもご検討いただければと思っております。

【(職能団体／CG・映像) CG - ARTS 公益財団法人 画像情報教育振興協会 宮内様】

感想になってしまいますが、途中退学者の退学のところで様々な要因があるということだったのですが、①学習のところが理由となって退学された方が減少されたということですが、ここが一番学校としてサポートできる場所だと思いますので、そこが減ったことは素晴らしいことだと思いました。また、CG-ARTS 検定の資格取得に取り組んでいただきありがとうございます。エキスパートは社会人の方でも合格率が少し低くなってしまいうる難しいところですが、そこをクリアされた学生には表彰とか成績証明書にも記載しているとのことで、学力の向上はもちろんですが、学修のモチベーションアップといったところも考えられていて良いと思いました。

【(地域住民) 原田様】

学校の経営とか募集とか詳しいことはわかりませんが、学生さんがもし地域の活動に参加していただけるなら、ぜひ参加していただきたいと思っております。日本電子の学生さんはまだあまり問題を起こしていないと思いますけど、この地域には日本語学校や専門学校がたくさんありまして、清掃の活動をする度に煙草の吸い殻がたくさん出ています。それは学校の学生さんのせいではないと思いますが、世の中禁煙の時代なのになぜこんなにどんどん煙草の吸い殻が増えていくのかといつも不思議に思っています。学生がやっているのかわかりませんが、何かありましたら学校の授業の中でも指導してもらいたいと思っております。いつもよく地元には協力していただいて感謝しております。

【(父母等) 高橋様】

いろいろ細かい説明をしていただいて新しい改善をいろいろ取り組んでいただいております。引き続きよろしく願いいたします。

【(在学生) 江藤様】

全体的な所感といたしましては、すごく適切に活動が行われているのではないかと感じました。私自身も就活の際にキャリアセンターを活用し、サポートを受けましたので、いろいろな方がそのようなところで尽力されているのだと感じました。学生の私としての意見ですが、退学率低減の対策といったところがあると思いますが、私の学科自体すごく退学者が多くいまして、2クラスだったのですが、今現在1クラスで運営している状態ですので、学科毎によって対策の仕方も変えていくのも良いのではないかと感じました。また、資格に関してなのですが、費用面によって断念してしまうような学生もいるのではないかと感じました。私自身も最近資格を受けたのですが、授業で習ったことに対する資格だと20,000円もお金がかかってしまうので、企業に入ってから資格を取得する人も多くなってきています。そういった費用面であったり、2年に上がってからは多忙な時期ということもあって、2年では資格取得が難しいため1年でどれだけ資格を取得できるかといったところのサポートが重要になってくるのではないかと感じました。

【(企業/アニメ) 株式会社ぴえろ 鈴木様】

今しがた、学生代表の江藤委員からのお話でかなり生産性のある込み入った部分の質問だなといったことで、私としては学生の皆さんがこういうことを真剣に考えられているところにいたく感心いたしました。自治会というところに力を入れられているところも、私も採用面接を通してやはり学生の社会性というところを感じるところでもありますので、そこは引き続き頑張っただけならば学生さんの就職に対してもすごくいい効果が出てくるかと思いました。今回、全体を通してやはり中途退学ということへの質問等がすごく多かったという印象を受けました。私は先週地方面接の兼ね合いで、多くの地方の専門学校を回ってきました。学生の皆さんともお話を聞いてきたのですが、やはり1年時において入学してすぐ専門性の高い修学という点で、追い

つけない、思ったよりも自分がついていけないというのを感じて、ドロップアウトしていくという話を多く耳にしました。その意味ではデータ上、特に学習の項目についての低減がなんとか食いどまっているというところは、学習支援の項目ではやや不適切という評価でしたが、私としてはすごく頑張られているのかと感じましたし、江藤委員からもありましたけれども、数字というところではそれぞれの学科ごとに認識が異なると思いますので、そういったところをさらに細かく見ていただくことでより一層この項目に対しての対策が進んでいくのかという風に感じました。最後に、船山校長が冒頭申し上げていましたが、法改正を通してこれから御校にとって、業界を支えていくという意味でも期待される場所も大変多いかと思えますし、我々産業界としても国際競争というところに力を入れいくために専門学校の方がより良い教育を実施され、優秀な学生さんを輩出されることに対しては大変期待しておりますし、我々も協力できることは精一杯やっていきたいと思えますので、今後の発展につながりますようお願いいたします。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和5年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学・進級卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① 情報分野分科会
- ② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
- ③ DX 分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会

- ⑦ アニメ分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG・映像分野分科会
- ⑩ モバイル・AI 分野分科会

学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～17：00
場 所： オンライン会議
分 野： 情報分野
学 科： 情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科
出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）渡邊 登 合同会社ワタナベ技研
代表取締役

（合計1名）

②日本電子専門学校

蓮見 圭亮 情報処理開発科 学科長
柳橋 宏樹 情報システム開発科 学科長
糠盛 創 高度情報処理科 学科長

（合計3名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和4年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学・進級卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況
 - ・コロナ禍対応
 - ・教育課程編成委員会の意見の活用状況
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 令和5年度の教育活動に関する報告について

（就職状況について）

就職状況について、とくに留学生の就職について議論が行われた。

情報処理科では、やや内定率が低下しており、人手不足だが、採用を増やせない企業が増えている印象がある。留学生の入学が戻り人数も増えており、学生の学力低下が目立っている。今後は、OBの採用企業を始め、企業と密なコンタクトを強めたい。

情報システム開発科では、企業の採用意欲にやや陰りは見られる。採用活動においてオンラインの活用に変化は見られず、入社後に馴染めるか心配は残る。留学生が増えており、留学生の採用に不安が残る。

高度情報処理科では、内定の早期化が進んでいる。

委員からの意見として、中小企業やベンチャー企業では、経験者採用が多く育てる余裕はなく、専攻分野を意識した採用が多い印象がある。OB採用の企業との関係は大切だろうが、数年の経験で辞める人が多く、離職率も気にしたほうが良いだろう。人事の担当者は現場の開発には詳しくない人も多いので、就職にあたり気を付けたほうが良いかもしれない。

学科の意見として、留学生は、中国をはじめとする海外出身の経営者の日本企業への採用や、留学生同士でのコミュニティで採用を決める縁故採用も多くみられる。

委員の意見として、直近の留学生を見ると、日本語はたどたどしいが、ダイジョブそうに見える。最初の段階ではスタートアップにアルバイトに入り、そのまま就職する留学生もおり、技術的に自信のある留学生は大丈夫ではないか。

学科の意見として、留学生の二極化が進んでおり、上位層は良いが、下位層の就職に不安が大きい。

委員の意見として、SES はお客さんから何を言われるかわからないから、留学生を避けることも致し方ないのかもしれない。せっかく留学生が日本に来ているのだから、留学生が社会に馴染んでもらうことも大切だろう。

(各種教育活動について)

教育活動について、とくに教員不足への対応について議論が行われた。

情報処理科では、教員の不足に対応するためにも、オンラインプログラミングチェックサービス TechFull の導入を行った。

委員の意見として、教員不足への対応は採用を増やすだけでなく、負荷を減らす方法を検討しても良いのではないか。

委員の提案として、教員の不足を補うために外部と連携をしても良いのではないか。例えば、自身の会社でも講師として支援は検討できるだろう。実習補助やオンライン学習補助のように、非常勤講師の契約よりも柔軟に対応できるサポーター制度のような制度があれば、対応しやすいだろう、とのご提案があった。

(その他)

その他、各学科の就職状況、休退学状況、資格取得状況、教育活動の状況、教育課程編成委員会での質疑と活用状況の報告などが行われ、とくに、休退学理由として、学費理由やなんとなく出席できなくなるあいまいな休退学が増えていること、情報処理科では期末試験後にJ検を受験することで合格率が上昇したこと等について質疑が行われた。

- ま と め:
- ・留学生の上位層と下位層に応じた対応をしつつ、留学生が定着できる方向を目指す。
 - ・学外と柔軟な連携をできるサポーター制度ができないか検討する。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和5年7月22日（月）15：45～16：30
 場所： 職員室 会議室（大）
 分野： ネットワーク・セキュリティ分野
 学科： ネットワークセキュリティ科
 出席者： ①学校関係者評価委員
 （企業）相原 弘明 ストーンビートセキュリティ株式会社 セキュリティ技術部 統括責任者

(合計1名)

②日本電子専門学校
 姜 怜和 ネットワークセキュリティ科 学科長
 明石 憲佳
 園田 昌平
 色川 雄樹

(合計4名)

- 次第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和5年度の教育活動に関する報告
 ・就職状況
 ・休退学、進級・卒業等の状況
 ・目標資格の取得状況
 ・各種教育活動の状況(特別活動、プロジェクトなど)
 ・教育課程編成委員会の意見活用状況
 3. その他の意見交換

議題1 就職状況について

クラス	卒業生数	就職希望者数	内定者数（率）
22CC01	25名	25名	25名 100（%）
22CC02	24名	24名	24名 100（%）

※就職希望以外は、進学及び自己都合による就職せず

<意見>

企業としても人材の確保が引き続き重要になるが、売り手市場の側面が強く、質の確保がより重要になるとの事であった。

議題2 休退学、進級卒業の状況について

学年	入学時	進級	退学	休学他
1年	67名	38名	21名	8名
	進級時	卒業	退学	休学他
2年	58名	49名	6名	3名

※退学には除籍及び職業能力訓練生の退校も含む

<学科からの状況説明>

休退学者が学科創設以来でも相当数に上る点について、原因が進路選択において十分な考慮がされていない事、それによる学習状況の不良が発生し、心身に支障をきたしてしまう学生が大半を占めた事を説明した。また、多様化する家庭の事情やコロナの影響で対面授業に慣れていない点も、退学者が増える点であると説明した。

<意見>

対面授業を中心に組み立てているのは、実機を扱うスキルの獲得に直結する事から、企業側としても賛同できるという事であった。また、前述のIT人材売り手市場の面や世代の特徴から、学生→社会人のギャップに耐えられない若手社員もおり、人材獲得、育成において課題になってい事であった。

議題3 目標資格の取得状況について

資格名		取得者数
LPIC / LinuC	Level 1	11名
Linux Essentials		6名
CCNA		3名
CCST Networking		2名
OSS-DB Silver		1名
CompTIA Security+		2名
TOEIC		2名

<意見>

- ・資格取得の補助制度については賛同を得られた。企業においてもそうした制度の有無は重要と考えており、同社においてもそれらを活用してスキル向上を図る社員が一定数いるとの事であった。
- ・資格については評価の指標にはなるが、実務経験とのアンマッチが企業でも問題になるケースがあるとの事であった。

議題4 令和5年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

- (1) 第18回若年者ものづくり競技大会 ITネットワークシステム管理職種 1名出場
- (2) 第61回技能五輪全国大会 ITネットワークシステム管理職種 選考会 2名出場
(東京都 学生代表 獲得)
- (3) 第61回技能五輪全国大会 ITネットワークシステム職種 2名出場
- (4) Cisco APJC NetAcad Riders 2023 Round 1 2名出場 (1位2位 獲得(日本代表))
- (5) Cisco APJC NetAcad Riders 2023 Round 2 2名出場 (9位/18か国)

<意見>

- ・知識や技能について、現状十分に研鑽する機会を学生に対して提供している事を評価いただいた。ただ企業側としては、(本校に限らず)就職時に最低限のビジネスマナーについては身に付けさせて欲しいという意見をいただいた。
- ・外部大会において毎年一定の成果を収めている点について、評価をいただくとともに引き続き出場学生への指導を通じ、学科の学びの質向上や学生のモチベーションアップに繋げて欲しいとの事であった。

議題5 教育課程編成委員会の意見活用状況

- (1) 「無線 LAN 構築」科目に関しては、実習室環境及び使用 PC やデバイスなどを考慮すると現テキスト内容を維持することが難しい。よって、テキスト内容に沿って講義形式で学習する。
- (2) 「不正アクセス対策」科目に関しては、ポートスキャンはサーバマシンを使用せずにローカルマシン上で仮想環境を利用したローカル環境(学生個々)で同一イメージを作成。実習内容が実施できる環境を準備して実施する。
- (3) 学科の人材育成像を基に、現状の「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」について貴重な意見を頂いた。大きな相違はなく細かい部分での検討が必要なところは精査してカリキュラムに反映できるように努めていく

その他の意見交換、まとめ

- ・セキュリティインシデントに関連するニュースが増加し、その影響もあり企業の業績としては非常に好調であり、それに伴い新卒の採用数も増やしているが、分野ハードルが高いイメージがついており、思うように人材が集まらないとの事であった。これについては、現状の学科入学者数が増えていない点とも無関係ではないと考えられる。
- ・学生がオンライン授業を経て学習をしてきた影響により、対面スキルの重要性が増している。同社においても、自身の意見を正しく発信できるスキルや対人コミュニケーションスキルを重要視しているとの事であった。
- ・生成系 AI に頼りがちな学生について議論をしたところ、同社においても同様の課題があるとの事であった。
- ・全体のまとめとして、企業が求める新入社員像(対人コミュニケーション力、実機を扱う基礎力)に対し、学科の教育内容や方針は概ねマッチしていると考えられる。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

学 科： DXスペシャリスト科

出席者： ①学校関係者評価委員

（団体）原 洋一 一般社団法人ソフトウェア協会 理事 事務局長

（合計1名）

②日本電子専門学校

谷口 英司 DXスペシャリスト科 学科長

植山 沙欧 DXスペシャリスト科 テクニカルチーフ

（合計2名）

- 次 第：
1. 学科の概要について
 2. 令和5年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・ドロップアウトの状況
 - ・質保証に対する資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 質疑応答

- 議 事：
1. 学科の概要について
DXスペシャリスト科の学科概要を説明し意見を求めた。

<意見>

カリキュラムは世の中の流れに沿っている。経済産業省のDXレポートではユーザー企業でのIT部員が不足しており、DX人材の採用ニーズは大いにある。上手く育てられる学科になることを望む。企業側でもDX関連のリスキニングを実施している状況であるので、学校で学べるのは理想的である。教育の結果、卒業生の就職する分野には期待をしたい。

2. 令和5年度の教育活動報告について

別紙資料をもとに、以下の項目について報告し、意見等を求めた。

- (1) 就職状況（卒業生が居ないため、現状の内定状況を報告）
- (2) 休退学、進級の状況
- (3) 目標資格の取得状況
- (4) 各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
- (5) 教育課程編成委員会の意見活用状況（卒業生が居ないため報告せず）

<意見>

退学者が「精神的」なことが気になる。企業側健保の休業理由も「精神的」が多いが、コミュニケーション不足があり、学校もその原因はあるのか？企業でも精神的な問題のケアは答えが無いので苦慮している。

ITパスポート取得に関して、一般社団法人ソフトウェア協会では職員全員取得を目指している。しかし、年々出題範囲が広くなり不合格になる方もいる。業界でも講座を開いて実施はしているが、全員取得には至っていない。

オンライン授業ならではの教育を目指してほしい。今は対面で意見交換が当たり前であるが、オンライン環境のみのコミュニケーションから結果が上がるような教育を期待する。オンライン環境を活かせる人材が地方でも活躍できるように、IT業界は地方と東京の賃金格差を無くす努力をしている。DXスペシャリスト科での人材育成に期待をしている。

アメリカではIT人材がユーザー企業に多いため、日本もユーザー企業にIT人材が必要になると思われる。この学科でノーコードローコード開発をするのは良い試みである。この学科の科目「ビジネスプロデュース」で実施するアイデアソンとして、業界では若手に地域の課題解決のためにIT技術を使うとどうなるか?のアイデアソンや事業プランを練る人材育成勉強会を行っている。このような勉強会を円滑に進められるようなベースとなる知識を教育できるといえる理想的である。

3. 質疑応答

<質問：評価委員から>

- ・オンライン授業と対面授業での効果の違いはどうか?
→試験の結果等では大きな変化はなかったが、長い期間で見るとオンライン授業での悪影響の具合は不明である。
- ・オンライン授業のコミュニケーション不足から精神的な問題を抱えたのか?
→入学前から不登校や家庭的な問題からの精神疾患があり、オンライン授業が原因ではない。
- ・オンライン環境でも学生間で質問しあっているのか?
→学生間での質問は、登校日に対面で行っているようで、あまりオンライン環境では質問等はしていないように見える。

<質問：教員から>

- ・ビジネスプロデュースのアイデアソンや事業プランの勉強会の期間は?
→1週間合宿で行っている。キックオフミーティングでアイデアソンのやりかたを学んでおき、実際に地域へ訪問し、どのような環境なのかを調査し地域を理解したうえで合宿開始としている。アイデアソンではファシリテータをつけてアイデアの出し方をレクチャーしグループごとに意見をまとめ、合宿終了1か月後にプレゼンテーションを行う。

今後ともアドバイスいただけるように依頼し、学校関係者評価委員会分野別分科会を終了した。

まとめ： 今回いただいた意見は学科運用の参考とし、教育課程編成委員会へつながらるようにしていく。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

分 野： 電気分野

学 科： 電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）舟山 大器 一般社団法人 日本PVプランナー協会
EMA 認定センター長

（合計1名）

②日本電子専門学校

高橋 俊幸 電気工事技術科 学科長

山路 哲平 電気工学科・高度電気工学科 学科長

（合計2名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和5年度の教育活動に関する報告

・就職状況

・休退学、進級卒業状況

・目標資格

・コロナ禍対応（教育活動、特別活動、プロジェクトなど）

・教育課程編成委員会の意見活用状況 等

3. 意見交換

4. その他

議 事： 議題1 令和5年度の教育活動報告について

<意見>

・昨年度の教育課程編成委員会の意見をうまく活用できているとご意見いただいた。

議題2 就職状況について

<意見>

学科	人数	就職率
電気工事技術科	22名	100%
電気工学科	22名	100%
高度電気工学科	10名	100%

・毎年安定して就職できている点、大手企業に多くの学生が就職している点を評価していただいた。

・2024年度入学者で留学生が多くなっているため、今後も留学生対応がキーポイントになるとご意見をいただいた。

議題3 ドロップアウトの状況

<意見>

学科・クラス		年度 初期人数	年度 終了時 人数	ドロップアウト理由
電気工事 技術科	22KK	23名	22名	・精神疾患
	23KK	19名	17名	・精神疾患(2名)
高度電気 工学科	21KZ	10名	10名	—
	22KZ	12名	11名	・進路の見直し(1名) - 別業種への挑戦
電気工学科	22KJ	22名	22名	—
	23KJ	36名	33名	・精神疾患(1名) ・進路の見直し(2名) - 退学後就職(1名) - 別業種への挑戦(1名)

- ・休退学の理由はいずれも仕方ない内容で、対応も十分実施しているご意見いただいた。
- ・学校全体としては退学者の数が増えているので、学生に寄り添ってできるだけ前向きに学業に取り組めるよう支援すると良いご意見いただいた。

議題4 資格の取得状況

<意見>

学科・クラス		第二種 電気工事士	第一種 電気工事士	第三種 電気主任技術者 ※1
電気工事 技術科	22KK	—	11/22名, 50%	—
	23KK	—	4/17名 23.5%	—
高度電気 工学科	21KZ	—	9/10名, 90.0%	1/10名, 10.0% (3/10名, 30.0%)
	22KZ	—	11/11名, 100%	3/11名, 27.2% (6/11名, 54.5%)
電気工学科	22KJ	16/22名, 72.7%	8/22名, 36.4%	2/22名, 9.1% (4/22名, 18.2%)
	23KJ	32/33名, 97.0%	18/33名, 54.5%	2/33名, 6.1% (13/33名, 39.4%)

※1 括弧内は科目合格者数

- ・十分な実績を出せているため、今まで通りサポートを続けていくのが良いご意見をいただいた。

議題5 コロナ禍における各種対応

<意見>

- ・教育活動と学生の安全衛生を考慮しつつ、各種資格の認定校として最適な割合で、オンライン授業を組み込むと良いご意見いただいた。
- ・企業連携授業と特別活動も感染対策に十分配慮しつつ、可能な範囲で計画すると良いご意見いただいた。

まとめ: 専門教育に加えて資格取得や就職面など、学生に対して十分な教育ができていると前向きな意見をいただいた。今年度につき、今後も留学生の比率が増加することが予見されるため、多様なルートを持つ学生が専門技術を身に付け目標を達成できるよう、きめ細かい対応が重要になると改めて感じた。

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

分 野： 電子分野

学 科： 電子応用工学科

出席者： ①学校関係者評価委員
(団体) 米井 翔 一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

(合計1名)

②日本電子専門学校

仲田 英起 電子応用工学科 科長

(合計1名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和4年度の教育活動に関する報告
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・就職状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況
 3. 意見交換
 4. その他

議 事： 議題1 令和5年度の教育活動報告について
<意見>

(就職状況および休退学、進級・卒業の状況)

- ・昨年度の実績および現時点での状況、卒業後の就職業種の比率などを確認した。また留学生の状況等の確認も行った。
- ・また今年度の休退学・進級卒業状況についても確認を行った。
- ・大手企業への就職実績ができたので広報していくとよいのと意見をいただく。

(目標資格の取得状況)

- ・資格取得状況の確認を実施し、問題ないことが確認された。

(各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）)

プロジェクトについて

- ・ゲームショウVRプロジェクト、マイクロマウスプロジェクトなどの報告を行った。
- ・昨年度初出場したEVカートレースについても報告を行った。
- ・特に学科連携での役割分担や状況などについての質疑があり報告を行った。
- ・またVRプロジェクト等で作成した作品について紹介を行った。

特別活動について

- ・昨年度のEdge Tech展での見学会について状況を報告を行った。就職先の業界に直結する展示会なので引き続き実施していくことを確認した。当該展示会で引き続き学生向けプログラムもあるので活用していくことを確認した。

(教育課程編成委員会の意見活用状況)

- ・活用状況をご報告して、特に問題がないことが確認された。
- ・基礎教科の演習の位置付けなどについて
現実には高校での学習要領での内容について現実には十分できていないケースが多いとのことで、前提知識が崩れてきているケースが増えているとの情報を頂いた。
- ・ベースアップもいいが逆にやる気がある子向けに選択科目として応用演習のようなものを検討してもいいのではないかとご意見を頂いた。
- ・今の学生は授業からではついていけない部分も見ているので、興味関心のあるモノから入るようなカリキュラムを検討してもよいのではないかとご意見を頂いた。

その他

<組込み業界での言語動向について>

- ・組込み業界での使用言語についての動向をお伺いできた。今回は Rust 言語についての業界動向をお伺いし、分野ごとの動向や現状・将来性についてお伺いすることができた。

* Rust 言語については今後も継続して調査検討をすることとした。

<その他トピックス>

- ・上記に関連して AI (生成系含む) の利活用について業界の動向をお伺いすることができた。やはり各社使用に関しては慎重なようである。
- ・ETEC 試験に関して情報を伺った。学生にたいしては少しレベルが高い部分があるため要検討であるとのことがわかった。ただ業界に依存した試験であるので、どちらかといえばその分野へ就職が決まった学生向けに対応するのが良いのではないかとご意見を頂いた。
- ・その他資格関係についての意見交換を行なった。

まとめ: 状況を報告して概ね方向性等は問題ないことが確認できた。採用状況や昨今の電子部品の調達状況などの業界の動向を伺うこともできた。これらの情報は今後学生の就職指導などに役立てていきたい。また現状のカリキュラムについての学科の考えは業界の方向性にあわせても問題がないことが確認できたため、業界で必要な要素技術を抑えつつ基礎基本をしっかりと教育し場合によってはよりできる学生向けへのメニューも検討できればと考えている。

以上

関係者各位

令和6年度
第一回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時：令和6年7月22日（月）15：45～16：45

場 所：441教室（オンライン会議）

分 野：ゲーム分野（ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科）

出席者：①学校関係者評価委員

後藤 宗亮 様 株式会社ファンコーポレーション 第4研究開発室 課長

（合計 1名）

②日本電子専門学校

栗原 央道 ゲーム制作研究科 学科長

松島 秀夫 ゲーム制作科 学科長

伊藤 靖彦 ゲーム企画科 学科長

（合計 3名）

次 第：

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和5年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・ドロップアウトの状況
 - ・質保証に対する資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
3. 意見交換
4. その他

議 事：議題令和5年度の教育活動報告について

<報告 / ゲーム制作研究科>

CU科の2023年度ドロップアウト実績は2023年4月～2024年3月までの休退学者7.8%であり、初めて2桁を下回った。

退学 24名（R5年開始時 在籍309名） R5年度退学率（ドロップアウト率） 7.8%

休学 4名（R6年4月状況 3名転科 1名復帰）

<意見>

ドロップアウト軽減に繋がったことは評価できる。やる気がそもそもない子なども他校を見ているが同様に感じている。非常に先生方も苦慮されていることは報告からも理解できたのでそのまま進めて頂きたい。

<報告 / ゲーム制作研究科>

アジアデジタルアート大賞展 2023 産業応用部門入賞が出来たことを報告。

コロナが蔓延していた19～22年はコンテストに対しては消極的であったが、本年度から本格的に着手。久しぶりに受賞できることとなった。

<意見>

対外的活動に関して理解された。

<報告 / ゲーム制作科>

• 就職状況

就職希望者に対する就職率は5クラスすべて100%

ゲーム業界への就職は9名（アルバイト採用2名含む）

<意見>

ゲーム業界以外の学生の就職はどうなっているのか ⇒ ITプログラマーとして学んだことをいかして就職をしている。

• 休退学進級卒業状況

22CI（3月卒業生）：卒業率93.5%（休学⇒復学1名）

23CI：進級率79.1%（留年7名）

退学理由としては、学業意欲の低下が多く、進路変更、心的要因、経済的理由となっている。

<意見>

学科が大きいといろいろな学生が多く指導も大変ではないか ⇒ クラス担任の負担が大きくなっているのが事実で、教員個々で対応を模索しているのが現状。

• 目標資格

情報検定 情報活用試験 3級（J検）

ビジネス 能力検定ジョブパス 3級（B検）

22CI（3月卒業生）：100%（両資格とも全員合格）

23CI：J検95%、B検98%（残り数名）

24CI：7月下旬にB検受験を実施、J検は12月実施

<意見>

資格取得100%の方法について ⇒ 合格するまで補習→再受験を繰り返している。何度も受験する学生もいるが徐々に合格している。

• 各種活動状況

学科連携作品の紹介

1年生3作品、Game Pit Tokyo 2024、IGC学生選手権他

2年生2作品、東京ゲームショウ2023、東京ゲームダンジョン4他

現在ゲームショウに向けて鋭意制作中

<意見>

他学科との共同制作の運用について ⇒ 他学科の教員もプロジェクトに参加し、学生たちはオン

ライン授業の日もあり、SNSを使ってやり取りをしている。SNSには教員も入り、発言内容の確認指導も行っている。

<報告 / ゲーム企画科>

就職状況：就職希望者38名 内定者36名（4月に1名内定したため結果37名）

ゲームプランナー14名（家庭用6名、モバイル7名、遊技機1名）

グッズ企画制作1名、IT業界9名、営業7名、製造6名

<意見>

2年制課程という短い就業年数だが、ゲーム内定者が多いなど、状況を理解して頂いた。

<報告 / ゲーム企画科>

休退学進級卒業状況

22CR：卒業率97.6%（退学1名）学習意欲の低下が1名。

23CR：進級率89.5%（退学4名）学習意欲の低下が2名、経済的な理由が2名。

各科目に複数名の教員を配置。学生状況をチェックし、課題の遅れなどを早期に対応。複数名の教員がいることで、学生が相談しやすい環境を構築して、対応をしている。

（過去は教員数が少なく、閉鎖的な部分があった）

<意見>

Q. 相談しやすい・しにくいとは、どういう状況だったのか。

A. 特定の教員が、複数の授業を持っていると、1つの科目で問題が発生すると、他の科目でも相談しにくい状況になってしまっていた。それを緩和するために、複数名を配置した。

→ 今後も手厚いフォローをしながら、対応をしていくと良いと思う、とご意見を頂いた。

<報告 / 3学科共通>

東京ゲームショウや作品展示会などを実施する事で、ゲーム業界へ目指す学生へのチャンスを作るなど、積極的にイベントも実施をしている状況である。

<意見>

業界就職率を向上させるためにも、作品制作や外部へ展示するなどは、積極的に実施してほしい。

<まとめ>

後藤様は、今回から初めてのご参加だったため、具体的なお意見を頂戴するよりは本校の現状を理解して頂く事が大切と考え、学科の特徴の説明から始めた。ゲーム分野の学科として、ゲーム業界へ就職することが大きな目的だが、それらを諦めてしまう学生や勉強の方法が分からない学生が多いこと。目的達成をするためのハードルは非常に高いが、新しい方法を含め、対策を検討して行く必要があるなど、ご理解を頂いた。今後ゲーム業界へ就職させるために、作品制作・展示会などは、今まで以上に実施をしていき、学生が意欲的になれる環境を作って欲しいとの話題が挙がった。現状の取り組みは、良い方向へ進んでいるからこそ、より一層のよい成果が出る様に、頂いた意見を踏まえて、今後活かしていきたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～17：00

場 所： 日本電子専門学校 7号館5階 753教室

分 野： アニメ分野

学 科： アニメーション科、アニメーション研究科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）鈴木 周佑 様 株式会社ぴえろ 人事総務部

（合計1名）

②日本電子専門学校

坪井 翔 アニメーション科 学科長

五十嵐 淳之 アニメーション研究科 学科長

守屋 竜史 アニメーション研究科 テクニカルチーフ

（合計3名）

次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について

2. 令和5年度の教育活動に関する報告

・就職状況

・休退学、進級・卒業の状況

・目標資格の取得状況

・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等

3. 意見交換

4. その他

議 事： 令和5年度の教育活動に関する報告

議題1 就職状況について

アニメーション科（2年制） 就職率 100%

アニメーション研究科（3年制） 就職率 96.40%

<意見>

・しっかり業界に就職できているようでよかった。

議題2 休退学・進級・卒業状況について

アニメーション科（2年制） 1年次：86.66% 2年次：100%

アニメーション研究科（3年制） 1年次：85.71% 2年次：97.05% 3年次：100%

<意見>

・この数字（休退学者数）は「まずまず」ではないか。

議題3 目標資格の取得状況について

色彩検定3級以上取得者

アニメーション科（2年制） 1年次：60% 2年次：68%

アニメーション研究科（3年制） 1年次：67% 2年次：54% 3年次：60%

<意見>

・色彩検定の取得者は3～4割くらいと想像していたが、6割は「多い」と感じた。

・目標資格にバラエティはあってもよいと思う。CLIPSTUDIO 検定、パース検定、アニメーション制作系の検定などが選択時に入ってくるかもしれない。

議題4 各種教育活動の状況（特別活動・プロジェクトなど）について

<意見>

- ・映画鑑賞会は弊社でも新人研修の際、取り入れている。

議題5 教育課程編成委員会の意見活用について

<意見>

- ・ササユリ動画研修所の教材導入について、学校としての指導方針、「軸」がしっかりしている前提で補助的に使用する程度であればよいと思うが、作画担当の中には「それを使ってしまうのか?」といった意見もある。作画は指導者、会社のカラーが出るので、指導担当の指示に実直に対応できる学生が望ましい。

その他

- ・作画職の採用に実技試験を取り入れる可能性がある。正社員として採用するにあたり、集中力を重視したいため、実技試験では画力よりも「取り組む姿勢」に着目することになるであろう。同様の理由から、会社説明会の際に内職をしているような学生は絶対に採用しない。
- ・ポートフォリオの提出にあたり、印刷状態がよくないものをそのまま提出する学生がいる。「この印刷状態ではよくない」と思えないのは危険である。

ま と め: 令和5年度の教育活動に関する報告に対して、高い評価をいただくことができた。特にポートフォリオ講評会は、企業にとっても採用に直結する有意義なイベントであることが再確認できたため、今後も継続して実施していくこととした。目標資格についても、学生の希望職種に関連する複数の資格をラインアップできるよう、今後も検討を継続することとした。あわせて、同社の採用試験に関する最新情報や可否の判定基準、若手社員の動向など、貴重なお話を多数伺うことができた。本校の教育内容をブラッシュアップするヒントも多数含まれているため、委員から頂いた意見を学科で共有し、教育の質向上を図るための検討を進めていきたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日(月) 15:45～16:45

場 所： 日本電子専門学校7号館6階2番教室

分 野： デザイン分野

学 科： グラフィックデザイン科 Webデザイン科

出席者： ①学校関係者評価委員
(企業) 木下 幸弘 株式会社ジェイスリー 顧問

(1名)

②日本電子専門学校

植田 誠一 グラフィックデザイン科 学科長

小山内 靖美 Webデザイン科 学科長

(合計2名)

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和5年度の教育活動に関する報告 (Webデザイン科・グラフィックデザイン科)
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況 (特別活動授業、コンテスト・大会、プロジェクトなど)
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議 事：

報告1 令和5年度の教育活動報告について (Webデザイン科)

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況 (内定率、内定先、職種別内訳)
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み (コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動)
- ・今年度の新入生について
- ・教育課程編成委員会での意見の活用状況

報告2 令和5年度の教育活動報告について (グラフィックデザイン科)

- ・休学・退学・進級・卒業状況
- ・就職状況 (内定率、内定先、職種別内訳)
- ・目標資格取得状況
- ・学科の取り組み (コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動)
- ・教育課程編成委員会での意見の活用状況

<ご意見>

議題1 留学生の就職指導について

- ・外国人専門の派遣会社に登録させることも検討してみたらどうか?
- ・接客をメインとした大手の企業であれば採用もあると思うが、デザイナー求人は少ないのも現状。
- ・企業側 (デザイン会社) は留学生の日本語のスキル評価について資格が重要ではない。面談で「日本語をしっかりと理解して話しているか?」等の基本的なコミュニケーションが大切。加えて正しい敬語を使えることも就職には必須。
- ・デザインの基本である「想像力」を大切にして教育するべき。Webデザイン科は、デザインの基礎教育である発想法の授業も取り入れてみたらどうか。

議題2 教育におけるAI活用について

- ・デザイン教育においては、自ら学び考える力を養うことが重要であり、AIが作品になってはいけない。進級制作や卒業制作などはクリエイティブを重視した作品制作なので、AIは使ってはいけない。その他アイデアを考えるプロセスでは積極的に活用してもよい。

課題3 授業・学習について

- ・Webデザインは最終的にコードで実装されたWebサイトで表現されるので、基本の”キ”として、Web制作の基礎言語であるHTML&CSSは理解しているべき。
- ・外国人の教員を学科に配属することも一つの手段。課題の意図や真意が今以上に伝わる可能性が高まる。加えて翻訳ツールを多用することで教員側と学生側の食い違いが防げるのではないか。
 - ・デジタル、アナログに捉われず、発想力を高められるような授業の大切さ。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15:30～16:30
場 所： 931 教室
分 野： CG分野
学 科： コンピュータグラフィックス科、CG映像制作科、コンピュータグラフィックス研究科
出席者： ①学校関係者評価委員
(団体) 小澤 賢侍 様 宮内 舞 様
公益財団法人 画像情報教育振興協会(CG-ARTS)

(合計2名)

②日本電子専門学校
岡野 正信 コンピュータグラフィックス科 学科長
永井 紀雄 CG映像制作科 学科長
金 統一 コンピュータグラフィックス研究科 学科長

(合計3名)

- 次 第： 1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 令和5年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学、進級・卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・教育課程編成委員会の意見の活用状況 等
3. 意見交換
4. その他

議 事： 議題 令和5年度の教育活動報告について
<報告と意見>

令和5年度のCG・映像分野3学科のクラス毎の就職一覧をご覧いただきながら、学生の就職状況について報告した。CGプロダクションやゲーム制作会社、アニメ制作会社、映像制作会社への就職が多く、業界の中でも著名な企業が並ぶ状況に「良好な就職状況」とのご評価をいただくことができた。また、昨年度は、過年度に比べると、デジタルコンテンツ業界以外への就職も増えたことについても報告した。

業界の現状については、大手ゲーム会社の一部がいくつかの大規模プロジェクト案件を中止したことによる新卒採用への影響や、アニメ業界のCG関連職についてはモデラーの需要が減り、アニメーターの需要増についてご意見をいただいた。

入学者の属性について委員からご質問があり、新型コロナ禍で減少していた留学生が増えたこと、CG・映像分野には目的意識が高く優秀な留学生が多いことや、留学生の比率、多彩な国籍について報告した。日本人学生についても、東京都による専門人材育成訓練制度の対象学科となったコンピュータグラフィックス科では入学者の年齢層にも幅ができ、留学生も含め、様々なバックグラウンドの学生が一緒に学ぶ環境となった。

資格取得については、CGクリエイター検定とアニメーション実技試験について意見交換を行った。CGクリエイター検定については、数年前から各学科で検定対策の授業も整備されつつあり、ベーシックにおいて合格者が増えた。今後は、ベーシックの合格率をさらに向上させていくとともに、エキスパートの受験者や合格者を増やしていくことについて確認した。本校からは受験機会を増やすためにCBT試験実施の検討についてお願いをした。アニメーション検定試験については、他校の取組みとして、CGアニメーターの就職希望者全員に受験させる取り組みや、優れたCGアニメーターを講師として採用してコンテストの上位に入賞できるようになった事例などについて委員からご紹介いただいた。さらに、モデリング、アニメーション、リグまでの工程を教える学校が増えており、カリキュラムに株式会社Tooが主催するアニメーションドラフト会議を取り入れている学校があることなども伺った。

学生指導面については、高校新卒に学力低下の傾向がややあり、入学後、授業の受け方から教える必要がある学生がいることが話題になり、レベル別にクラス分けを行っている他校ゲーム関連学科では、上位のクラスはゲーム会社、それ以外は IT 関連企業と就職指導も分けているとのことだった。

CG 関連技術については、オープンソースの 3DCG ソフトウェアである「Blender」や生成 AI について意見交換を行った。特に AI については、学生が AI を使って作品全般を作成しても評価はされないが、着想を得るために AI を使うことや、画像や動画を拡張するために AI を使うこと、問題解決のために AI を使うなど、活用の仕方によっては評価される。学生にその点を伝えていく必要があり、AI による遊びや小手先でできてしまうような制作物は、仕事としては使えないことを学生に教えることが重要とされた。

ま と め: 委員から業界や企業の状況や他校の事例について具体的な情報を得るとともに、本校からの意見や要望もお伝えすることができた。今後も様々にご協力を賜りながら、各学科の教育活動や検討に役立てていきたい。

以上

第1回学校関係者評価委員会 分野別分科会 議事録

開催日時： 令和6年7月22日（月）15：45～16：45

場 所： オンライン会議

分 野： モバイル・AI 分野

学 科： ケータイ・アプリケーション科、AI システム科

出席者： ①学校関係者評価委員

（企業）伊藤 好宏 JTP 株式会社 グローバルビジネスオペレーション統括本部 技官

（合計1名）

②日本電子専門学校

大川 晃一 エンジニア教育部 部長 兼 モバイルアプリケーション開発科 学科長

福田 竜郎 AI システム科 学科長

石黒 元康 AI システム科（議事録）

（合計3名）

- 次 第：
1. 分野別分科会の目的と議事進行について
 2. 令和5年度の教育活動に関する報告
 - ・就職状況
 - ・休退学、進級・卒業の状況
 - ・目標資格の取得状況
 - ・各種教育活動の状況(特別活動、プロジェクトなど)
 - ・教育課程編成委員会の意見活用状況 等
 3. 意見交換
 4. その他

議題1 令和5年度の就職状況および目標資格の取得状況について

<意見>

- ・ケータイ・アプリケーション科はモバイルアプリ開発に特化した学科なので、モバイルアプリ開発のみの企業を目指すならばそれなりの技術力が要求されると思う。
- ・AI システム科の就職内定率100%は素晴らしいと思う。
- ・AI システム科では資格を受験する学生が減っているとのことであるが、専門学校の学生に求めることは、第一に技術力であるため資格は取得して欲しい。Pythonは約5000円と他のベンダー資格と比べて安いので、Pythonの取得に注力してはどうか。
- ・G検定はAIについて網羅的に出題されるのでお勧めです。

議題2 令和5年度の休退学、進級卒業の状況について

<意見>

- ・弊社でも新入社員でおとなしい人の割合が増えている
- ・個別対応は大変だと思いますが、何とかうまい仕組みを考えてほしい。

議題3 令和5年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

<意見>

- ・外部コンテストへの参加や卒業制作発表会の取り組みは素晴らしいと思う。
- ・ケータイ・アプリケーション科の卒業制作物の動画は今の若者らしくて面白い。

議題4 教育課程編成委員会の意見活用状況

■モバイルアプリケーション開発科

<意見>

- ・コース制にすると先生方の負担が増えるので、AndroidプログラミングとiOSプログラミングの両方を学んで、卒研はどちらか1つを使ったとしても自分で選択しているわけですから違和感はないと思います。

■AI システム科

<意見>

- ・AI といっても自然言語処理、画像処理など幅広いのでどれかに絞っても良いのではないか。
- ・機械学習の深い理解を求めている学生には、先生方のご負担が増えるかと思うが、そのような学生向けの授業があるとよいと思います。

ま と め: モバイル・AI 分野の分科会では、多様な学生が多く在籍する中、就職率および休退学の学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。また、教育課程編成委員会での意見活用についても問題はないとの評価を頂いた。専門学校生には技術を持っていることが前提なので、せめて資格は取得してもらおうようにしてくださいとのご希望があった。個別指導が必要な学生が増加傾向にあるが、細かな学習状況のチェック及びフォローの方法を模索してゆきたい。

以上